



松竹
姐
妃
婆
女
水
滸
傳

207
2
750



国立国会図書館 女水滸伝 2編15巻 207-750

ガラス使用

松竹梅女水滸伝 2編

207
2
750





女水滸伝

初巻

後編



戲作舎
三馬著
五渡亭國貞画

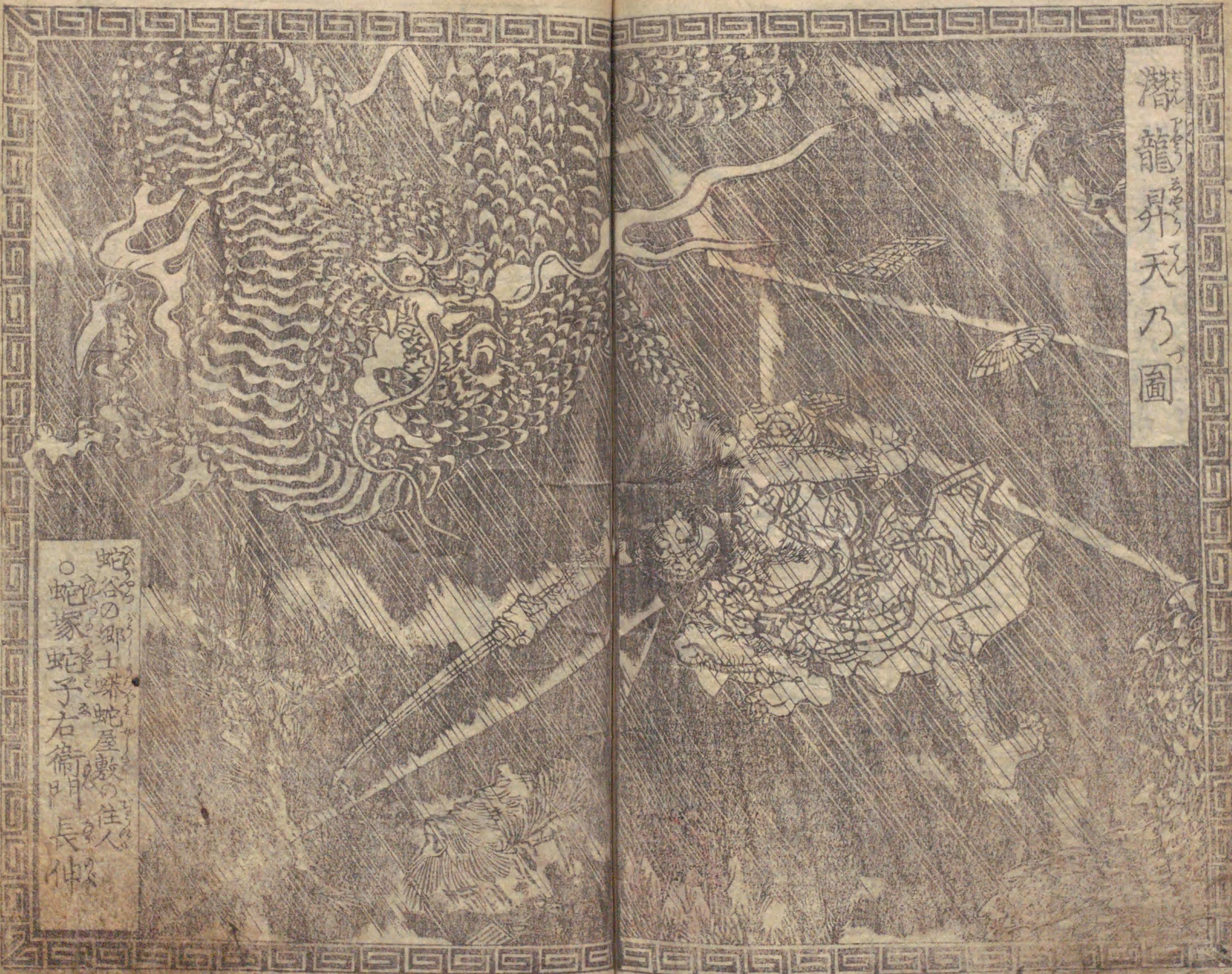
雪之句三浦屋三幅對之一

繪本遊君畫繼圖
元祖鳥居庄兵衛



願くは紅粉樓の
明鏡とありて君が
嬌面とてこそ願くは
釣衣桁の輕羅とありて
君が細腰のほろん所謂北里平康比
比頭或ハ金陵板橋乃と孫とて
比せともマ馬鹿ら十目れ視る所
こんお娼妓が唐ゆるものら嗚呼お有難うござ





蛇谷の郷士 蛇屋敷の住人
蛇塚 蛇子 右衛門 長伸

潜龍昇天乃圖





佛の袋のりりちちを
 ひろひりりり巨きま
 ゆきまへりまわつせん

座塚お松出家して
 貞松尼

高尾俗稱阿竹手飼の猿
 斑毛猴

形、研乃柔、和理、とて
 心、茨の依、估、地、かり
 親、令、懼、て、山、の、神、に、崇、め
 子、分、尊、で、妖、御、と、稱、せ
 若、衆、た、ん、の、い、ど
 抹、で、も、ゆ、り、の、悪、婆、の、性、未
 志、あ、る、を、道、此、人、面、獸、心



姉妃悪婆
 阿棋







伏稟

此稟史全部十五冊に編むととも張數多き
 の多し割て前後に多し前編六冊の巻小合巻
 去て既小既根せり残る所の九冊と三巻は合巻一七
 今茲裝布お及ぶ若お編と見ゆるさる看目ハ
 書舗おつゆと需えたるて一さ六後編お
 扱のゆり會得し煩雜とる條解易く
 應報天理あきとるさるて以治りある
 於本丁庵
 文政四年辛巳春 式亭三馬戲作



後編之二



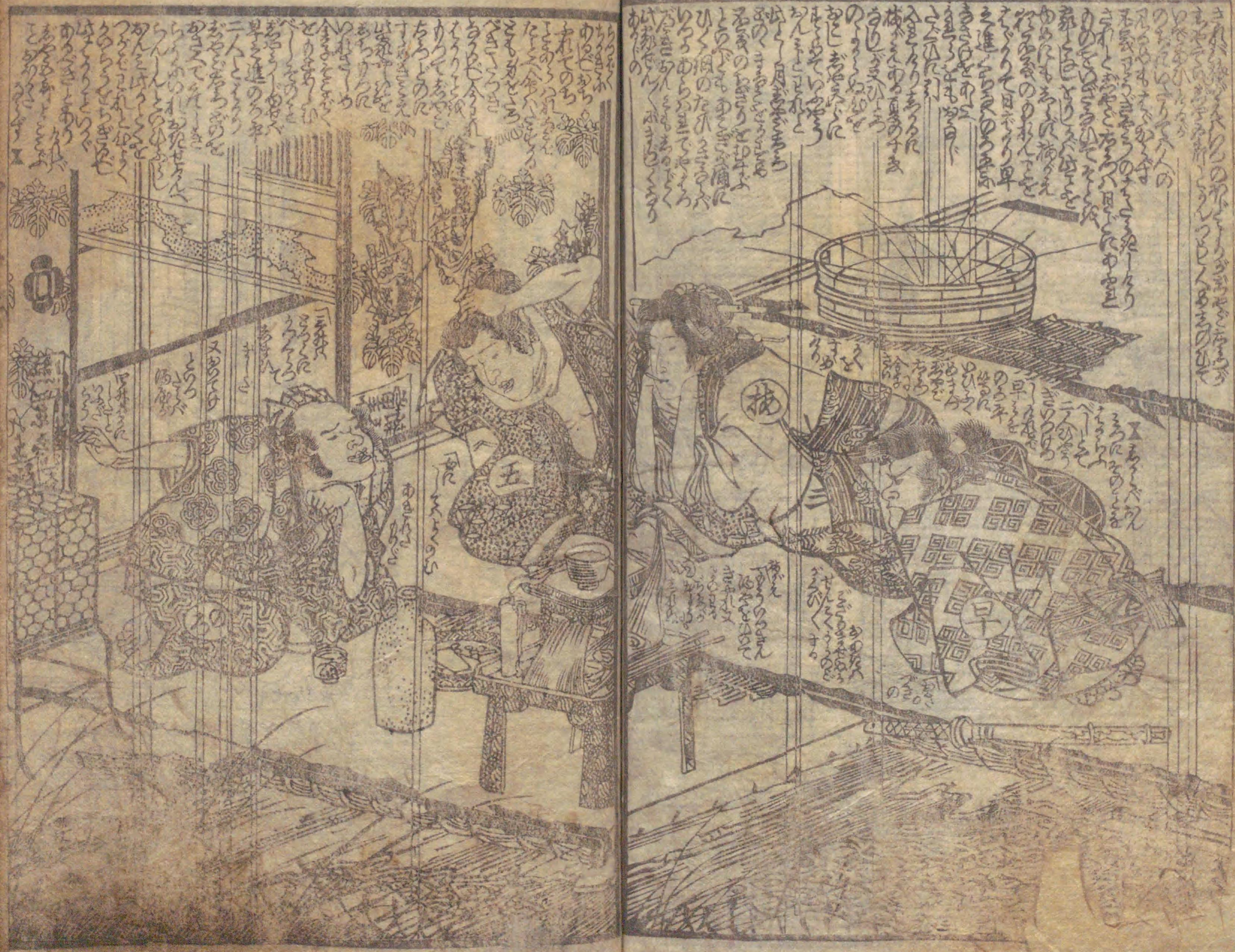
Vertical columns of handwritten Japanese text (kuzushiji) surrounding the illustration on the left page.



Vertical columns of handwritten Japanese text (kuzushiji) surrounding the illustration on the right page.





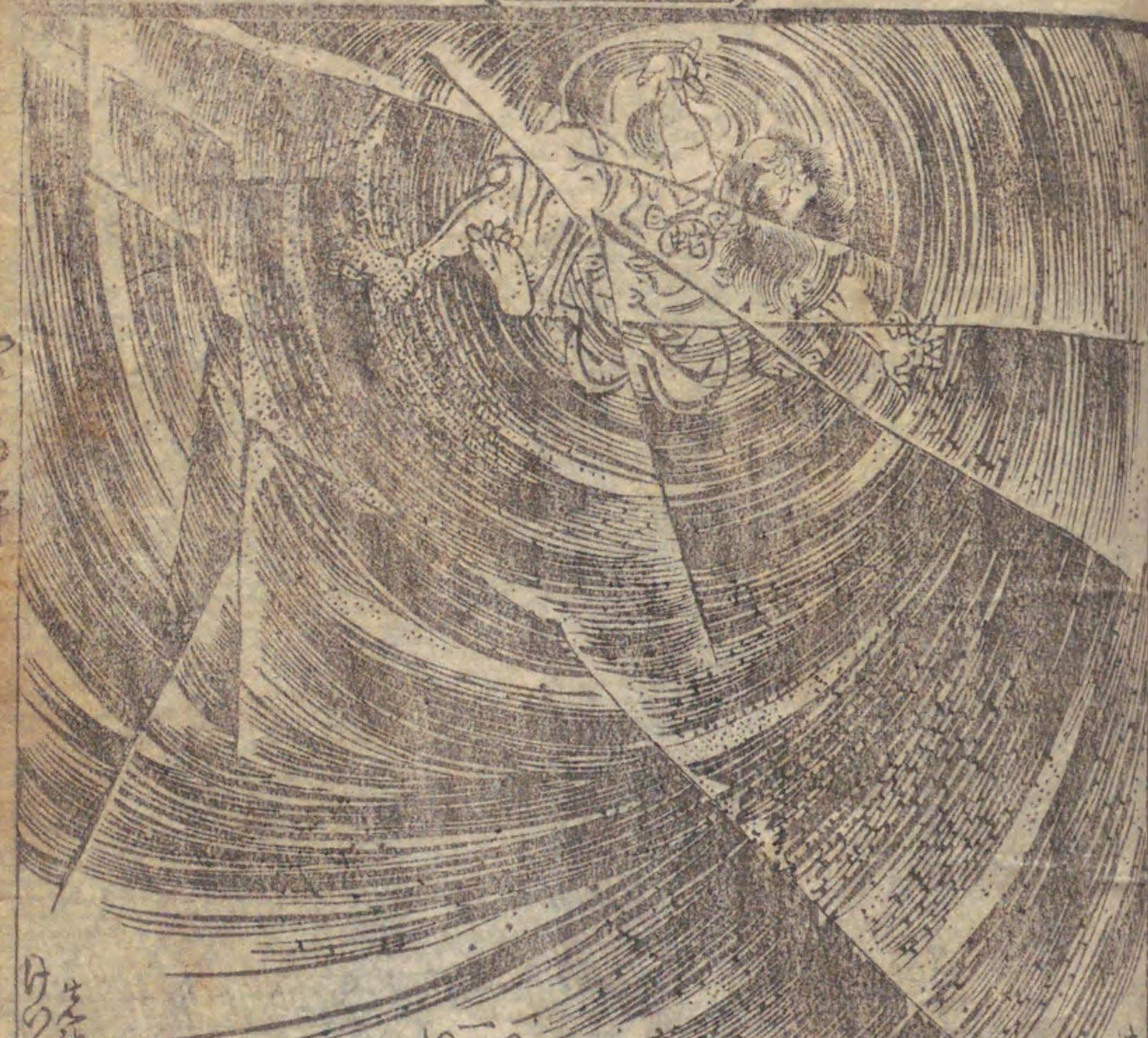




女水滸伝



後編之三



Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a narrative or commentary related to the illustration above.



Handwritten Japanese text at the bottom of the right page, continuing the narrative or commentary.





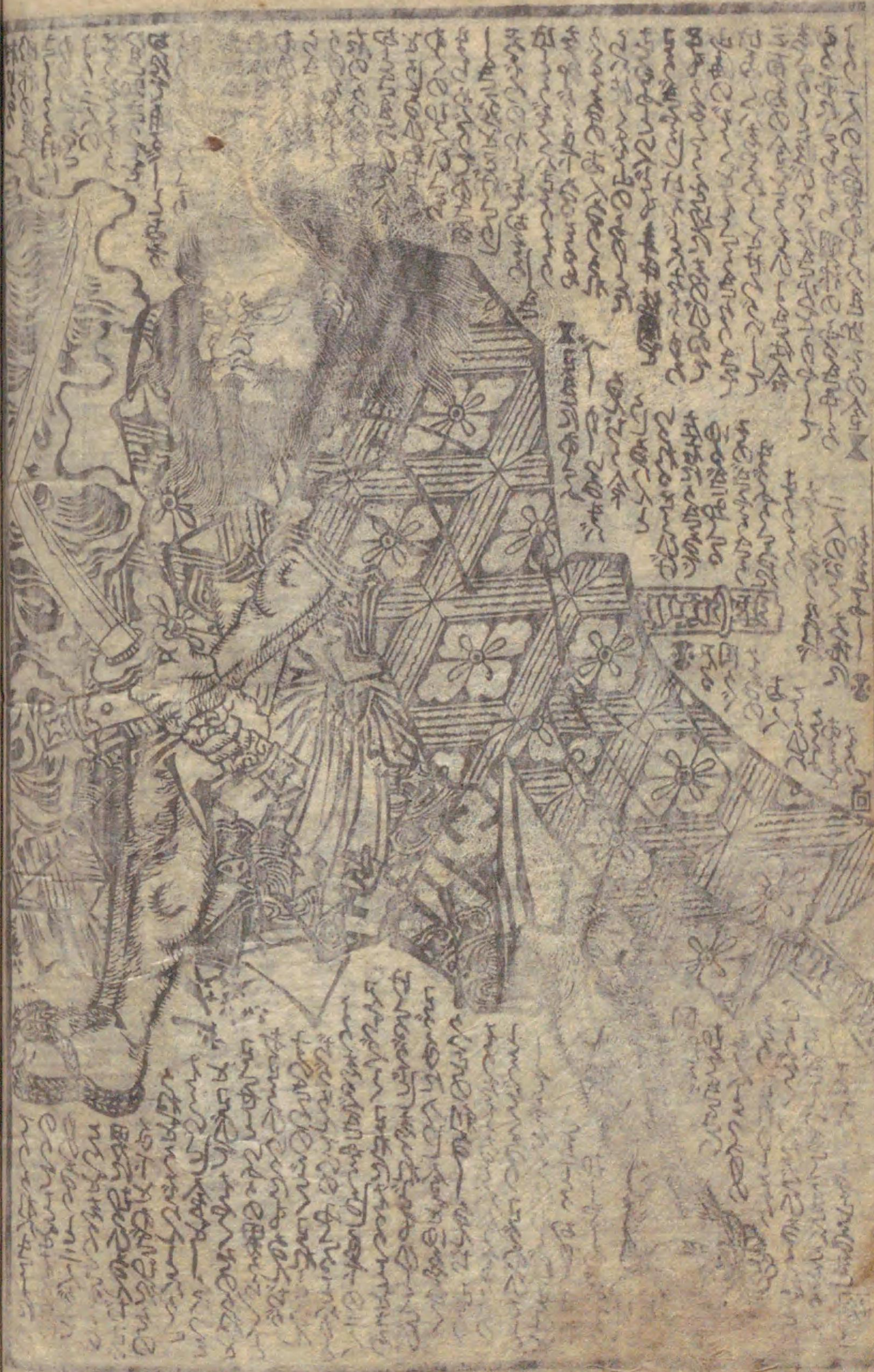
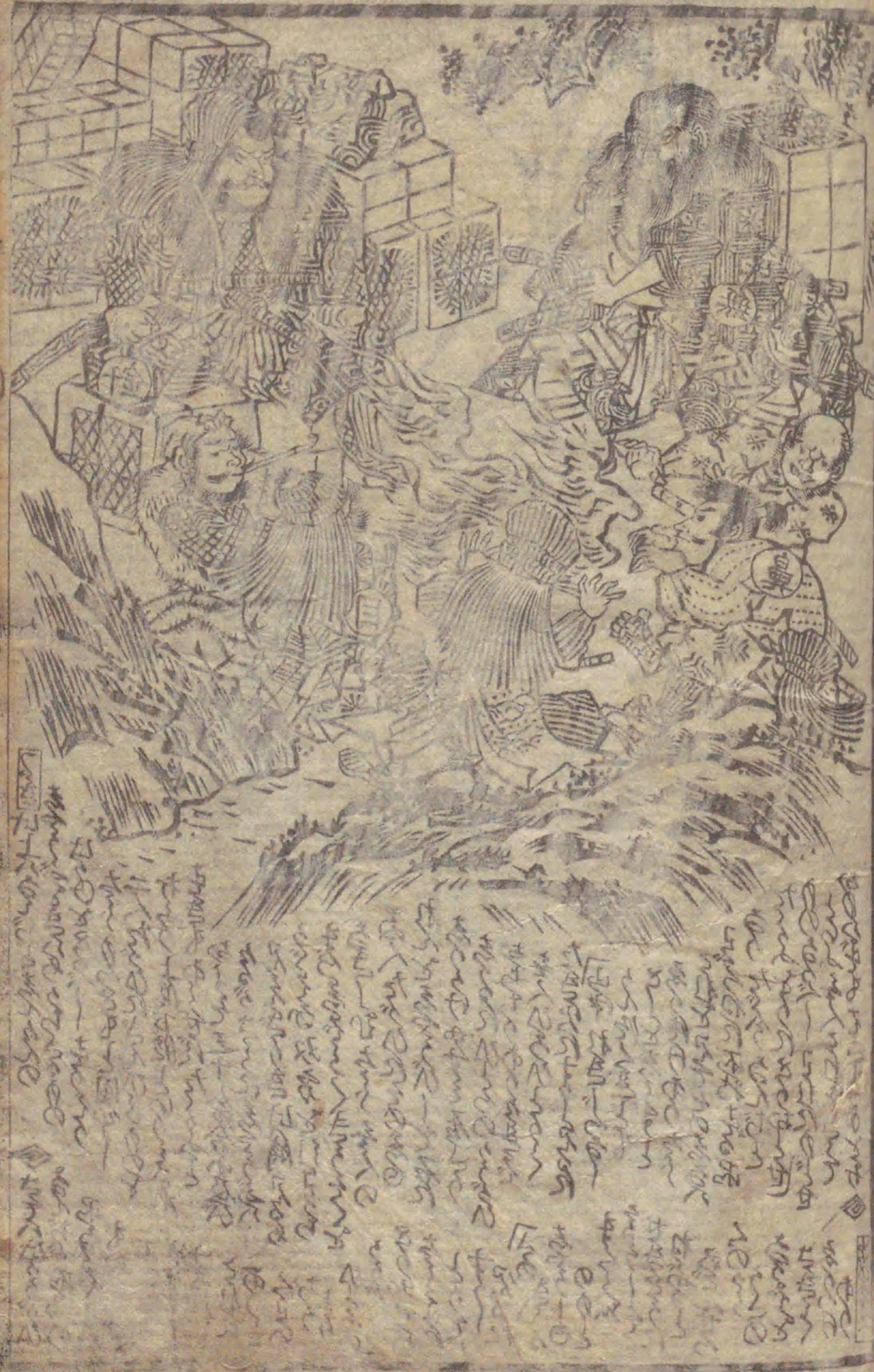


Handwritten Japanese text in kuzushiji script, arranged in columns at the bottom of each page. The text is densely packed and appears to be a narrative or commentary related to the illustration above.









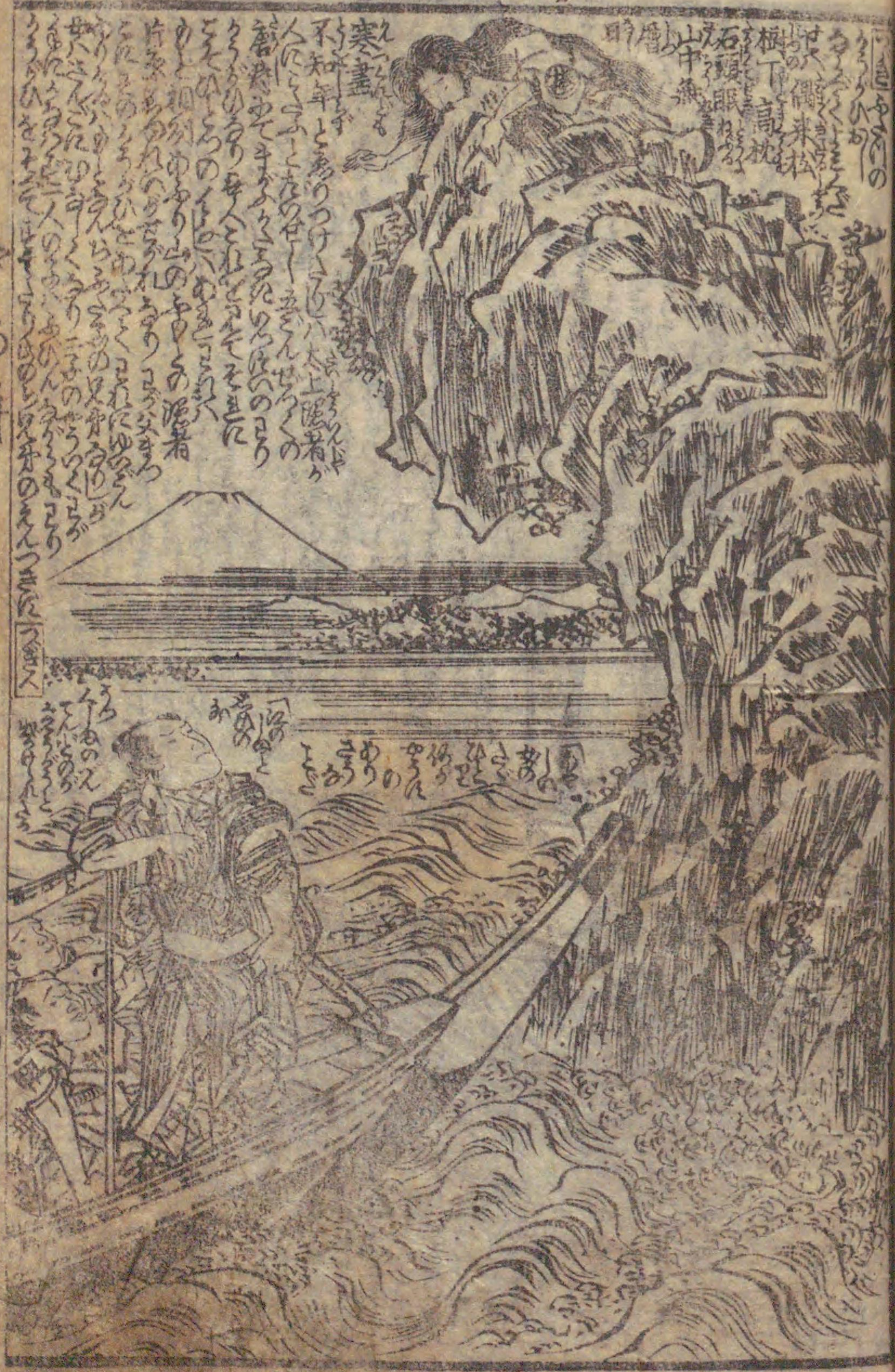




女水滸伝



後編之四



松竹梅
女水滸
傳
後編
中卷
辛巳春

式亭
三馬作
歌川
國貞画
榮久堂

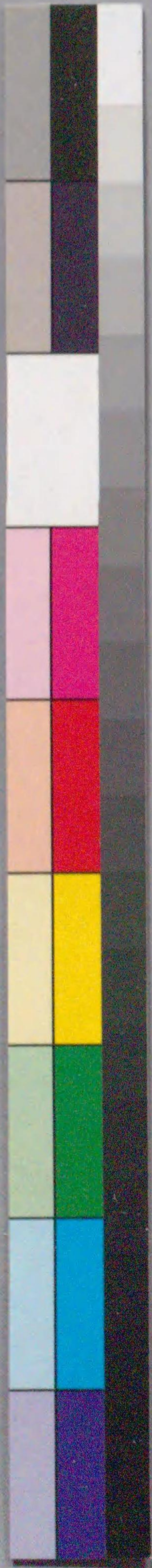
















山崎
の
まへ
に
あ
ら
は
し
ま
す

まへ
に
あ
ら
は
し
ま
す
まへ
に
あ
ら
は
し
ま
す

まへにあらはします
まへにあらはします
まへにあらはします
まへにあらはします
まへにあらはします

まへにあらはします



まへにあらはします

まへにあらはします

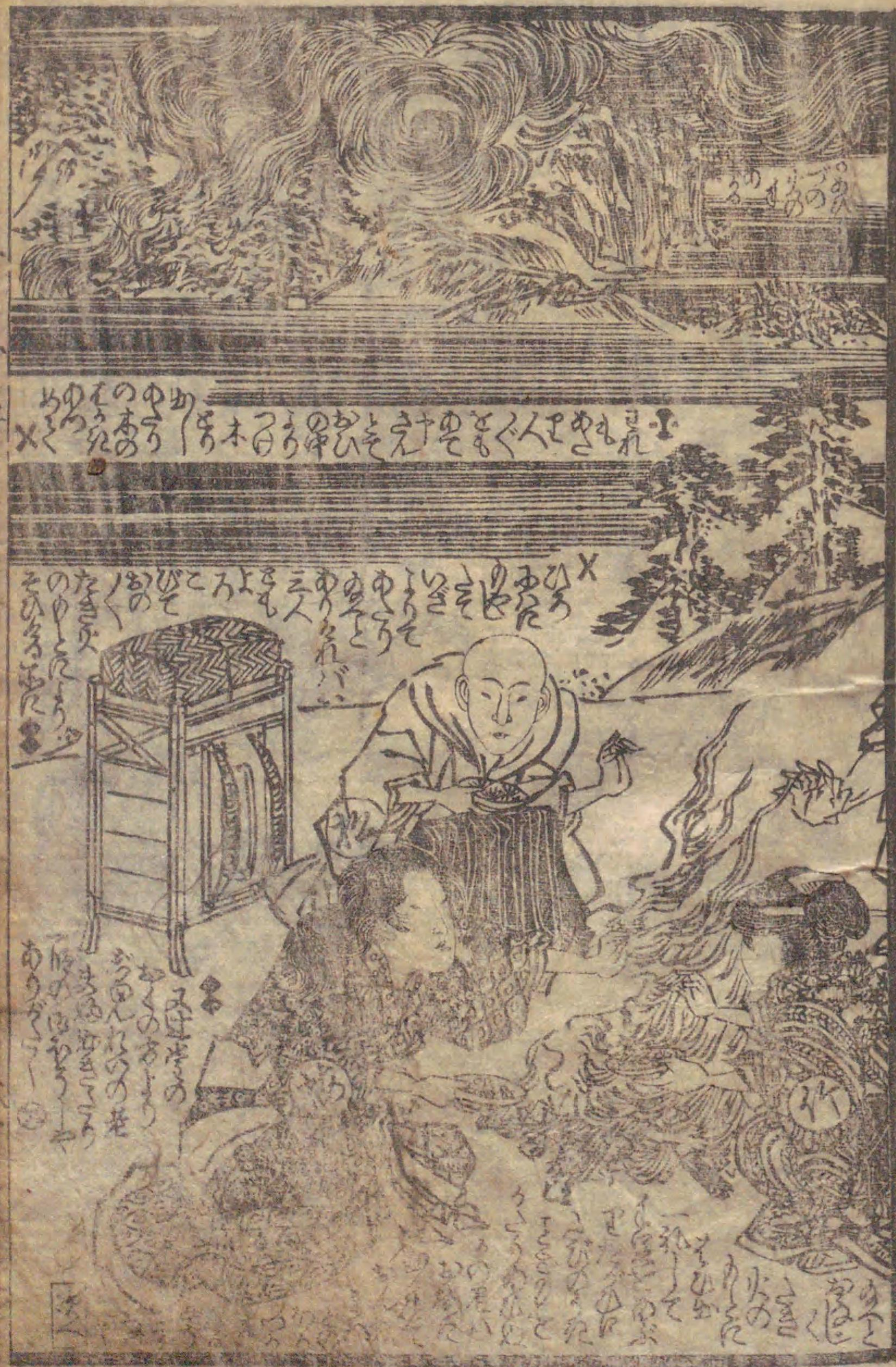
まへにあらはします

まへにあらはします
まへにあらはします
まへにあらはします
まへにあらはします
まへにあらはします

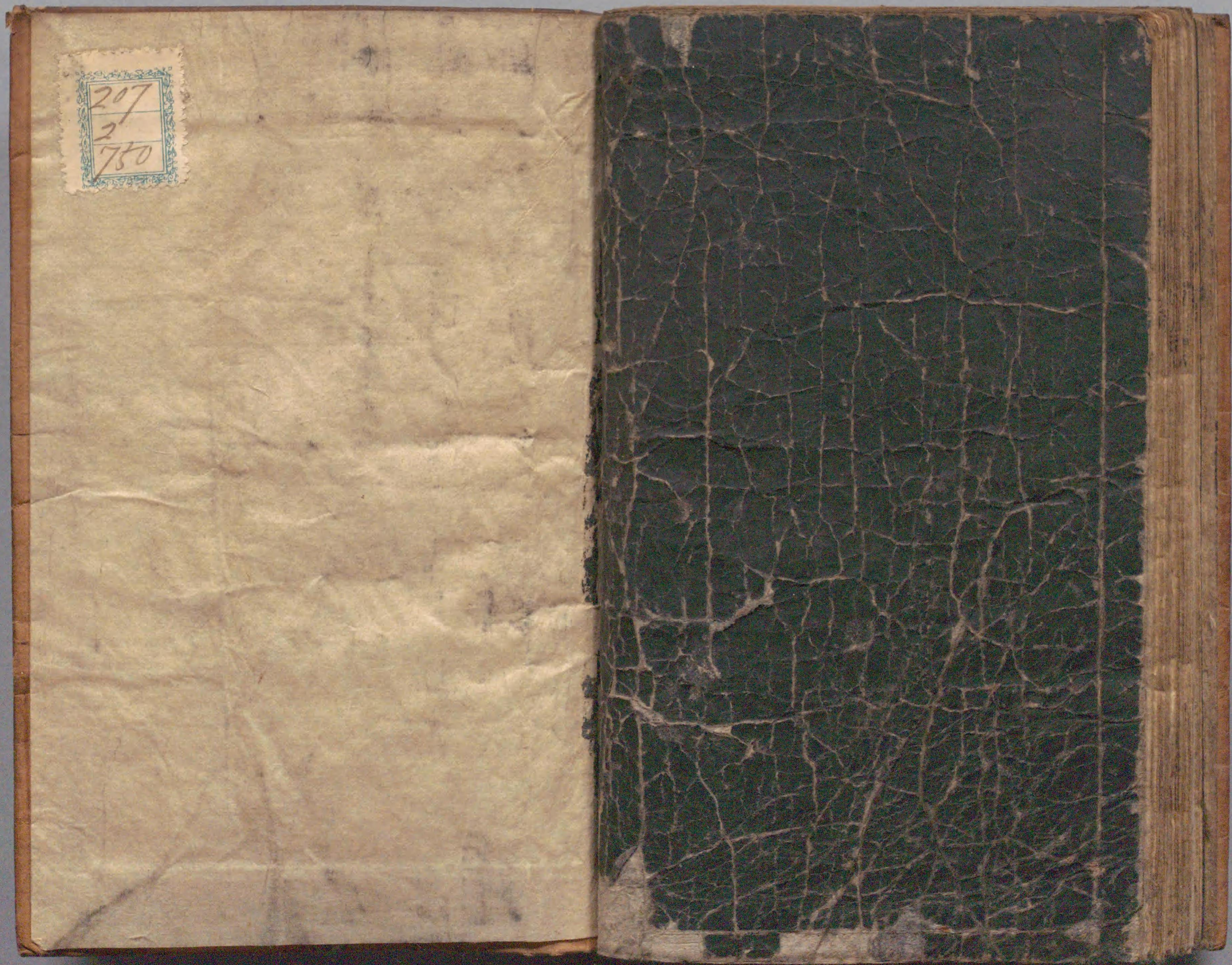
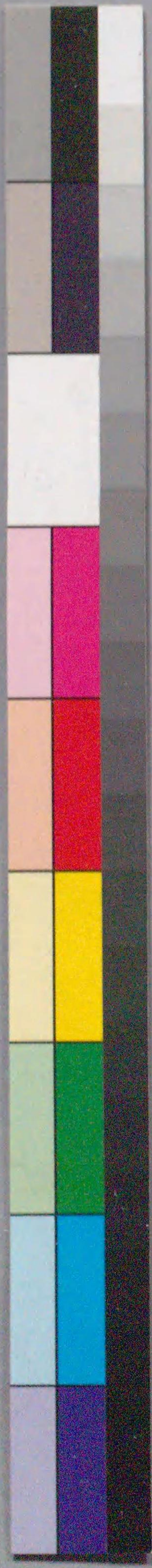
まへにあらはします
まへにあらはします
まへにあらはします
まへにあらはします
まへにあらはします





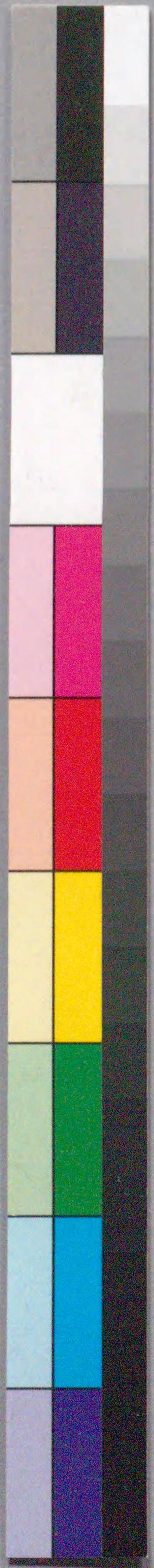




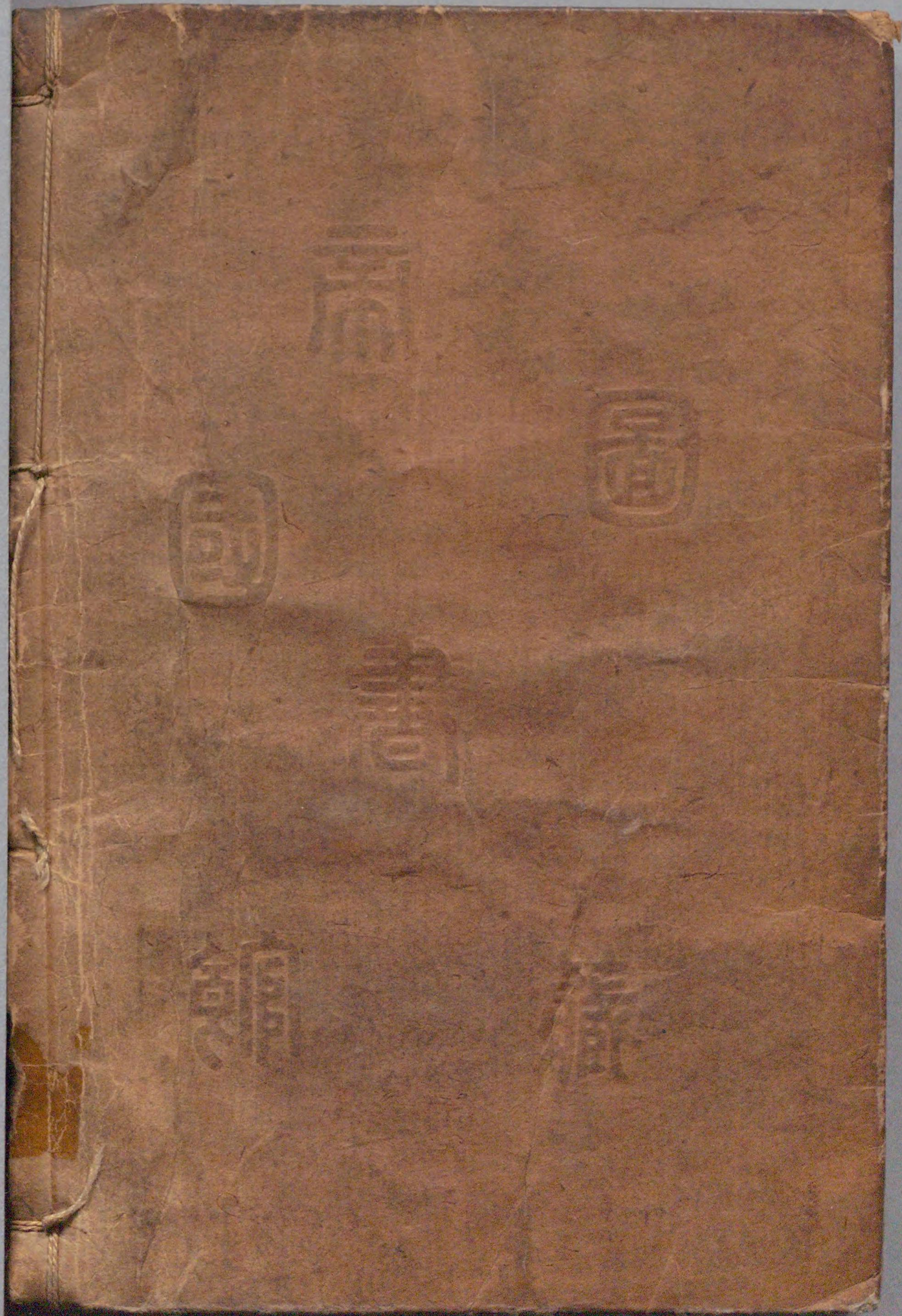


国立国会図書館 女水滸伝 2編15巻 207-750

ガラス使用



国立国会図書館 女水滸伝 2編15巻 207-750



ガラス使用

